

短期予報解説資料 2026年1月30日03時40分発表

気象庁

1. 実況上の着目点

- ① 上空の強い寒気を伴うトラフが北日本と東日本を通過し、日本付近は強い冬型の気圧配置。若狭湾付近を指向する日本海寒帯気団収束帯（JPCZ）の影響で雪が強く、太平洋側にも雪雲が流れ込んでいる。北陸地方や近畿地方を中心に3時間10cm以上の降雪を観測。また、低気圧が北海道の西をゆっくり南南東進。
- ② 伊豆諸島付近は気圧の谷となっており、活発に発雷。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①のJPCZは、指向先が西へ移動して山陰に進み、30日夜までに次第に不明瞭となる。北海道の西の低気圧は、30日昼頃にかけて東北北部へ進み不明瞭化するが、その西側を中心に気圧の谷が残って風が収束する。JPCZ及び低気圧や気圧の谷の周辺では、上空寒気と下層暖湿気の影響で大気の状態が非常に不安定となり、発達した雪雲が帯状に連なって流れ込み平地でも大雪となる所がある。西日本～東日本太平洋側でも上空寒気や1項②の伊豆諸島付近の気圧の谷の影響で大気の状態が不安定となり、雪雲が流れ込んで大雪となる所がある。冬型の気圧配置は、31日は西から次第に緩む。東日本では30日は、北日本では31日にかけて、大雪による交通障害に注意・警戒し、西日本では30日は、大雪に注意。着雪や、北～西日本の積雪の多い傾斜地ではなだれにも注意。北～東日本では31日にかけて、西日本では30日は、落雷や突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ② 前線を伴う低気圧が31日朝までに東シナ海で発生し、2月1日にかけて日本の南に進む。南西諸島では31日～1日は、大気の状態が不安定となり、雷を伴い激しい雨の降る所がある。落雷や突風に注意。
- ③ 1日は、500hPa 5340m付近で-36℃以下の寒気を伴うトラフが中国東北区から日本海に進み、日本海西部から北陸地方にシアーラインが形成される。上空寒気とシアーライン周辺の下層暖湿気の影響で大気の状態が不安定となり、降雪が強まって大雪となる所がある。1日は、北～東日本では大雪や着雪、なだれに注意し、北～西日本では落雷や突風、降ひょうに注意。
- ④ 2項①の冬型の気圧配置、②の低気圧や前線、③のシアーラインの影響で、やや強い風や強い風が吹き、波が高くなりしける所がある。西日本では31日にかけて、北～東日本では1日にかけて、南西諸島では31日～1日は、強風や風雪、高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。

② 降雪量(06時からの24時間)：北陸70、東北50、近畿40、北海道・中国30、関東甲信25

③ 波浪(明日まで)：東北・伊豆諸島・北陸4、北海道・近畿・中国・沖縄3m。

5. 全般気象情報発表の有無 「大雪に関する全般気象情報」を5時頃に発表予定。



主要じょう乱解説図